



福岡市政だより

令和5(2023)年

4/15

No.1729

令和5年度予算が決定しました

<令和5年度予算>

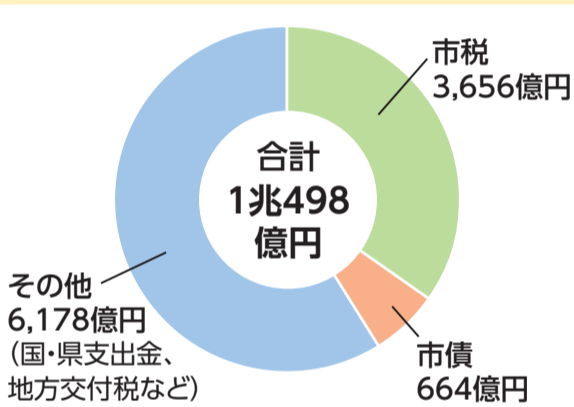
一般会計	1兆498億円
特別会計	7,007億円
企業会計	3,340億円
予算総額	2兆844億円

▷一般会計=福祉や教育、道路整備など、市民の暮らしに関わりの深い基本的な経費が計上される会計

▷特別会計=保険料や使用料など、特定の収入で特定の事業を行う場合に、一般会計と区別して設ける会計

▷企業会計=水道料金や地下鉄の運賃など、民間企業と同様に事業収入で賄われる会計

<一般会計 歳入の内訳>



<一般会計 歳出の内訳> 合計1兆498億円(市民1人当たり約66万円)

子どもの育成や教育に



計画的なまちづくりに



都市の安全と環境に



保健・医療・福祉に



行政の運営に



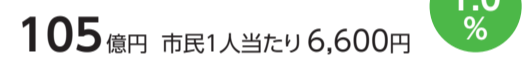
地域経済の発展に



地域活動・文化・スポーツに



新鮮で安全な食料の供給に



※一般会計の歳出の内訳は、市の人口を1,581,398人(令和4年12月末日住民基本台帳登録)で計算しています。

※予算額には、それぞれの事業の財源として過去に発行した市債の返済額が含まれています。また、金額は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。市の予算について詳しくは、5月発行の「ふくおかしの家計簿」(3面参照)をご覧ください。

■問い合わせ先／財政調整課 ☎711-4166 733-5586



世界水泳 FUKUOKA 2023



開幕まであと **90** 日

※開幕までの日数は、4月15日基準

【世界水泳選手権福岡大会】7月14日(金)～30日(日)

【世界マスターズ水泳九州大会】8月2日(水)～11日(金・祝)

世界水泳福岡

市長からのメッセージ 子育て世帯を 応援します

市は、国家戦略特区や天神ビッグバンなど、民間の活力や規制緩和を活用して都市の成長を実現してきました。その結果増えた市税収入で、市民の皆さんの生活の質を高める分野にしっかりと予算を配分しながら、市の借金である市債残高を着実に減らすことができている。特に、政令市で初めて第2子以降の保育料を無償化するなど、全ての家庭が安心して子どもを産み育てられる環境づくりに力を入れています。

市は、次世代に過度な負担を残すことなく、明るい未来をつないでいけるよう、今後も持続可能な財政運営に取り組んでいきます。

福岡市長 高島宗一郎



- <特集>令和5年度予算 1-3
 - 新型コロナ関連情報 4
 - 子育て世帯・高齢者世帯の住み替え費用を助成 5
 - 福岡マラソン ランナー募集 6
 - 分身ロボット「オリヒメ」を使って働く人を募集 7
 - 情報BOX 8-14
 - 区版 15-16
- ※本紙掲載の情報は3月30日時点のものです。

人口	1,632,713人 (前月比295人増)	面積	343.47km ²
男=770,276人/女=862,437人		ダムの貯水率	56.41%
世帯数	858,918世帯 (前月比386世帯増)		(3月30日現在)
※人口と世帯数は令和5年3月1日現在推計			

- 市役所代表電話 ☎711-4111 (市外局番は092)
- 市政に関するご意見・要望・相談 広聴課 ☎711-4067 733-5580
- 福岡市政だよりの配布 毎日メディアサービス ☎0120-359-303



SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、持続可能な社会の実現を目指す17の国際目標です。福岡市は、SDGsの達成に向けたさまざまな取り組みを進めています。

明るい未来を次の世代へ 令和5年度予算

令和5年度の予算が決定しました。今年度は、次代を担う子どもたちを安心して産み育てられる環境づくりと、福岡市の魅力をさらに高め、国内外の人たちに選ばれるまちにするための取り組みを推進していきます。

次世代を育み、誰もが元気に暮らすまち

多子世帯を応援します

一般的に「多子世帯」は3人以上の子どもがいる家庭を指しますが、市は次の事業について、2人以上の子どもがいる家庭を多子世帯とし、対象となる世帯の幅を広げました。

第2子以降の児童の保育料を無償化します。

第2子以降の保育料を無償化

保護者の収入やきょうだいの年齢に関係なく、全ての世帯を対象に、保育所(認可外含む)や幼稚園の預かり保育を利用する

住み替え助成を拡充

より快適な住環境で子どもを育てられるよう、子育て世帯の住み替えに係る費用をサポートします。2人以上の子どもがい

る世帯への助成額は最大25万円です(5面に関連記事)。



健やかな成長を願って



産前・産後サポート

ヘルパー派遣の利用料軽減と対象・回数の拡充

日中に家事や育児の支援を行うヘルパー派遣の利用料を、1回につき2100円から500円に軽減します(非課税世帯は引き続き無償)。

これまで産後のみに限定されていたヘルパー派遣が、妊娠時にも利用できるようになります(産前の利用は10回まで)。

また、産後に利用できる期間が6カ月延び、生後1年未満までとなります。さらに、きょうだいが未就学児の場合は、第2子以降の産後ヘルパーの利用回数を、これまでの20回から40回に増やします。



生活保護・児童扶養手当受給世帯の小5～中3の習い事費用を助成

市は、昨年度から生活保護世帯および児童扶養手当受給世帯の小学5年生～中学3年生に対し、電子クーポンを交付し習い事費用の助成(1人当たり月額上限1万円)を行っています。

新小学5年生は、3月に送付した案内文で申請方法をご確認ください。新小学6年生～新中学3年生で申請済みの人は更新手続き不要です。なお、未申請の人の申し込みは随時受け付けます。

昨年度当事業に登録済みの習い事教室等は、更新手続き不要です。新規登録の申請は随時受け付けます。

問い合わせは、子ども習い事応援事業運営事務局(☎406-3108 ☎451-0550)へ。



市科学館 基本展示室・ドームシアター 小・中学生の利用料金が無料に

4月1日～来年3月31日の期間限定で、小学生・中学生の市科学館5階基本展示室と6階ドームシアター(プラネタリウム)の一般番組の料金が無料になります。



基本展示室「環境」ゾーンの新展示「SCシアター」

問い合わせは、市科学館(中央区六本松四丁目 ☎731-2525 ☎731-2530)へ。

産後ケアの利用料の軽減

母体や乳児のケア、授乳・沐浴のアドバイス等を施設や自宅です受けられる「産後ケア」の利用料を、次の通り軽減します(非課税世帯は引き続き無償)。

▽宿泊型(ショートステイ) 1日当たり6000円→3000円

▽通所型(デイケア) 1日当たり4000円→2000円

▽訪問型 1回当たり2000円→500円

サポートを必要とする子どもたちへ

障がい福祉サービス利用料の軽減

来年1月から、障がいのある子ども向け福祉サービス等の利用者負担額を、保護者の収入に関係なく軽減します(非課税世帯は引き続き無償)。

未就学児については無償、学齢期(6～17歳)は利用の上限を

月額3000円とします。上限額の範囲内でサービスの複数利用が可能です。

子ども食堂への支援を拡充

子どもたちの居場所として地域で大切な役割を果たしている子ども食堂への支援内容を拡充します。

運営費の補助上限額を開催頻度に応じて15万円→最大60万円に引き上げます。また、8年を限度としていた補助の年限を当面設けず、継続的にバックアップします。

さらに、開催場所や食材の保管場所を市が広く募集してマッ



子ども食堂は温かい食事と人のぬくもりに触れられる場所

子ども医療費の助成対象を高校生世代まで拡大

来年1月から、中学生までの子どもの医療費を1医療機関当たり1カ月上限500円とする「ふくおか安心ワンコイン」の対象を、高校生世代まで拡大します。入院に係る費用も高校生世代まで無料とし、全ての子どもが家庭環境に左右されず安心して医療を受けられるよう制度を整えます。

※18歳になる年の年度末まで、中学卒業後に就職した人なども対象です。



国内外から選ばれ成長するまち

新たな価値を生み出す都市

●スタートアップ支援

起業したい人が気軽に相談できる場所として、市が平成26(2014)年に開設した「スタートアップカフェ」からの起業数が累計700を超えました。

新たに起業する人の輩出と、既にスタートアップした企業等のさらなる成長を促進するため、成長段階に応じた資金調達や人材確保などの支援を継続的にを行います。また、他の自治体とも連携し、九州全体のスタートアップの成長に向けて「九州スタートアップコミュニティサミット」を開催します。

●企業誘致

「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」によって、まちが大きく生まれ変わろうとしています。

緑豊かなまちへ 都心の森1万本プロジェクト

市は、天神・博多など都心部を中心に、市内全域にたくさんの樹木を植える「都心の森1万本プロジェクト」を開始しました。緑の木々でまちに「彩り」を加え、季節を感じ、憩える空間をつくっていきます。

さらに、市内の子どもたちに苗木を配布して植樹活動を促すなど、さまざまな取り組みを行います。

市と民間企業、市民の皆さんで力を合わせ、福岡市を緑あふれるまちにしていきたい。問い合わせは、公園部活用課(☎711-4367 F733-5590)へ。



このタイミングを生かして、国内外の企業に福岡の魅力を生かしてRします。立地交付金や地方拠点強化税制を活用しながら、雇用創出効果の高い大規模開発拠点や本社機能等の誘致に取り組んでいきます。

脱炭素への取り組み

●ZEBやZEH-1Mの設計費用を補助

オフィスビルや集合住宅の脱炭素化の取り組みとして、優れた省エネ性能を持つネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス・マンション(ZEH-1M)の設計費用を補助します。

市民の皆さんと共に脱炭素社会の実現を目指します。

●水素カーの導入

市は、次世代エネルギーである水素に着目し、水素社会の実

現に向け「水素リーダー都市プロジェクト」を推進しています。

水素で走る燃料電池自動車(水素カー)は、CO2の排出量がゼロで、音が静かなことが特徴です。市は、ごみ収集車や給食配送車に水素カーを導入するほか、救急車についても導入に向けた実証を行います。

このほか市では、都心部の回遊性向上を図るために水辺を生かしたまちづくりに取り組み「リバーフロントネクスト」や、市内各所で身近にアートの触れられる「フクオカアートネクスト」など、さまざまなプロジェクトが進行しています。

7月には「世界水泳選手権福岡大会」も開催され、国内外から多くの皆さんが市を訪れます。

市は、今後も市独自の魅力を磨き上げ、その魅力を国内外に発信しながら、市民の皆さんに、そして世界に愛されるまちづくりを推進していきます。



リバーフロントエリアにある春吉橋迂回(うかい)路橋上広場は、さまざまなイベントを行うスペースとして約1年間活用されます。その後、清流公園と一体的に整備を行います(写真はイメージ)

福岡市債の発行月が決定しました

令和5年度の福岡市債の発行月は下表の通りです。利率は、発行月の下旬に決定します。

利率の決定日や取扱金融機関などは、事前に市政だよりでお知らせします。また、市ホームページ(「福岡市債」で検索)でも発行計画や申し込み方法などを案内しています。問い合わせは、総務資金課(☎711-4592 F733-5586)へ。

●令和5年度発行予定

発行月	満期	発行額
6月	5年	100億円
10月	10年	100億円
12月	5年	100億円
来年3月	10年	100億円

※途中で売却する場合は、金利上昇による債券価格の下落等により投資元本を割り込むことがあります。
※市債の発行月・発行額は変更になる場合があります。

ふくおかしの家計簿

「ふくおかしの家計簿」は、市の予算や財政状況、財政運営の取り組みなどを、イラストやグラフ等を用いて分かりやすく説明したパンフレットです。

令和5年度版を5月から情報プラザ(市役所1階)や各区役所情報コーナーで配布するほか、市ホームページ(「ふくおかしの家計簿」で検索)に掲載します。問い合わせは、財政調整課(☎711-4166 F733-5586)へ。

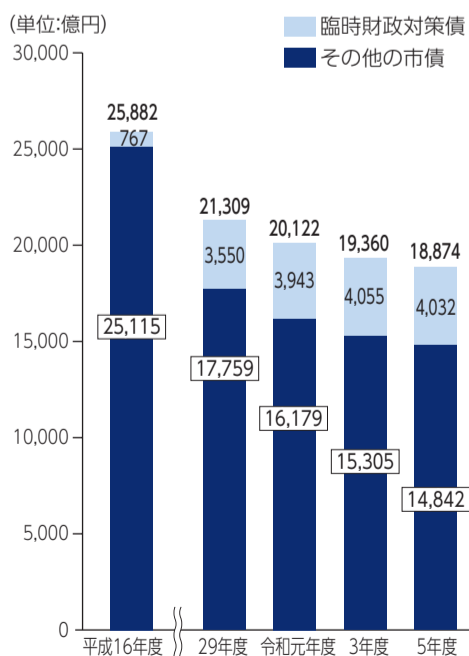


写真は令和4年度版

市債を発行する理由

道路・公園・学校など長期間使用される公共施設を整備する際に、その費用を今年度の予算だけで賄うと、現在の市民だけが費用を負担することになります。施設を将来使用する市民にも、整備等の費用を公平に負担してもらうため、市債を発行しています。

●市債残高の推移(全会計)



※令和3年度までは決算ベース、令和5年度は当初予算ベース。
※満期一括積立金を除く。

1人当たりの市債残高はピーク時の約半分

市債残高の着実な縮減

●市債発行額

令和5年度の市債発行額(一般会計)は664億円の見込みです。4年度の当初予算と比較すると、国が償還額を全額地方交付税措置する「臨時財政対策債」が70億円減ったことに伴い、35億円減少しました。

●市債残高の縮減

令和5年度末の満期一括積立金を除く全会計ベースの市債残高は、前年度から452億円減の1兆8874億円です。さらに、臨時財政対策債の高見込み額を除いた額は、市債残高が最も多かった平成16年度

末から1兆273億円減少し、1兆4842億円になりました。

市民1人当たりの市債残高見込み額は、昨年度をさらに下回る約94万円で、平成16年度末のおよそ半分になります。将来の世代に過度な負担を残すことのないよう、市は今後も、必要性や効果の高い事業を厳選し、市債残高の縮減に努めていきます。